

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 258

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

● 問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎ 3186

おかしな日本語みつけた

日本には、似ているように見えて異なる意味を持つ言葉があります。『区別』と『差別』もその一つです。

例えば、『男と女』は区別です。あってもいい違いです。しかし、これが『男は女より偉い』になると差別に変わります。あってはいけない比較です。さて、この二つはどこが違うのでしょうか。

『区別』とは、違いを認めて、性質や特徴で分けることです。これに対して『差別』とは、自分の主張を正当化するための、違いを口実にした言いがかりです。

想像してみてください。人の足を踏みつけておいて「私の足の下にあなたの足を入れないで」と理不尽なことを言われたら、踏まれた側はどう感じるでしょうか。差別をする理由は、差別をする側が都合のいいようにつくっているのです。

このことを踏まえると、ふだん何気なく使っている『無差別』という言葉に矛盾を感じずにはいられません。なぜなら、この言葉は『無差別テロ』のように、無関係の不特定多数の人たちに対する暴力行為を表現する際にも使用される言葉だからです。命を脅かす行為は人権侵害であり、差別がないとはいえません。

このように、私たち日本人は、差別の本質をあいまいに認識しているような気がします。ともすれば、このあいまいな認識が、差別の解消を妨げる一つの要因になっているのかもしれない。

子どもたちは学校で、差別のことを『人をいじめること』、『ばかにすること』、『仲間外しにすること』と学んでいます。差別をなくすために、まずは子どもの目線に立って差別の本質と向き合ってみませんか。

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝①

● 問合先 生涯学習課歴史民俗資料館 ☎ 7107

色絵幔幕花鳥文輪繫鉢（古伊万里）

今月号から、市所蔵の焼き物について紹介していきます。

第1回は、輸出古伊万里の代表格である色絵幔幕花鳥文輪繫鉢です。

口縁部が輪繫ぎ形をした非常に手が込んだ鉢で、輪は金彩の葉で飾られています。鉢の内側には、幔幕の下の染付に金と赤で花鳥が描かれています。高台内には、「N：316」と刻まれています。これは、ポーランド王で、ザクセン選帝侯のフリードリヒ・アウグスト1世（アウグスト大王）の陶磁器コレクションであることを示すパレスナンバー（国王所蔵番号）だと考えられます。このことから、輸出古伊万里の里帰り品として旧蔵者がわかる貴重な作品です。



↑色絵幔幕花鳥文輪繫鉢

ドイツのドレスデンにパロック様式のツウインガー宮殿を建てるなど、芸術に造詣が深いアウグスト大王は、古伊万里の収集家で、ドレスデン磁器やマイセン磁器を作らせたとされています。伊万里・鍋島ギャラリーでは、29日まで『鍋島焼十傑と輸出古伊万里の美展』を開催しています。

● 伊万里・鍋島ギャラリー ☎ 2267